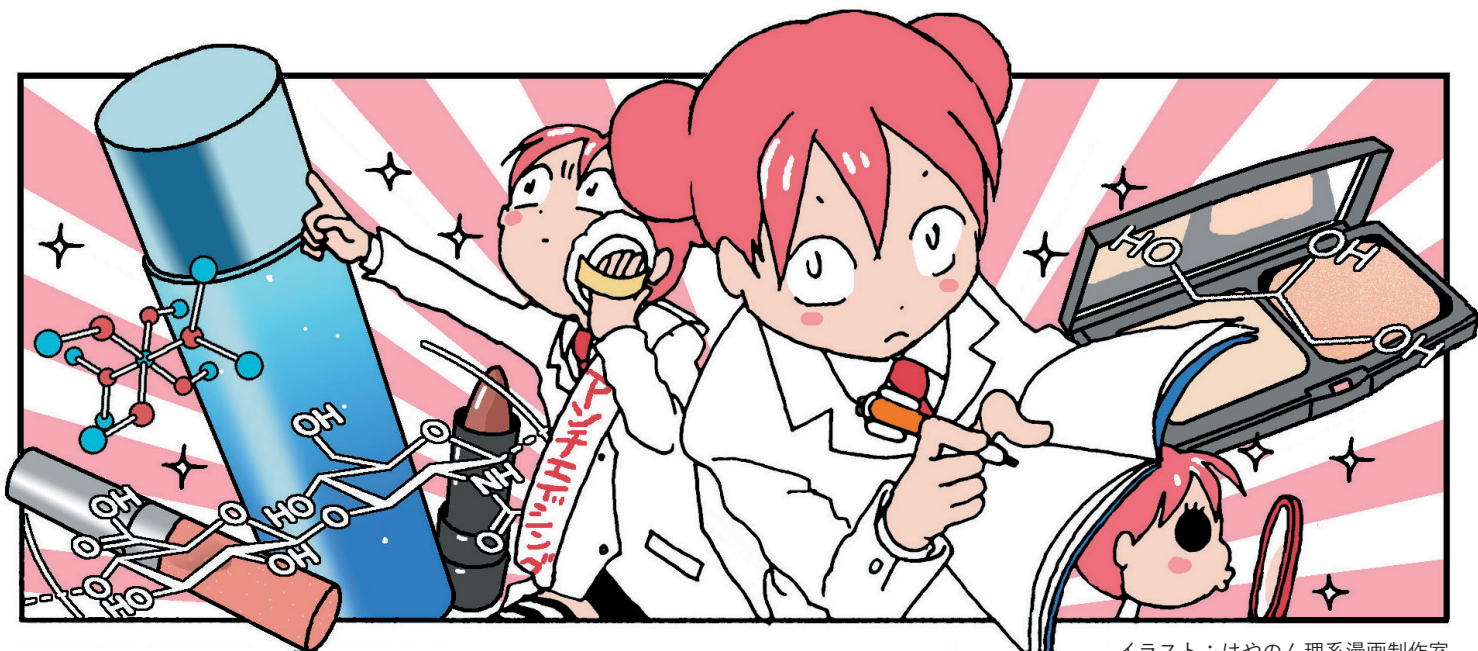


応用哲学会第8回 年次研究大会シンポジウム

哲学は視覚イメージ化できるのか

多様な媒体を通じた表現のあり方を探る



イラスト：はやのん理系漫画制作室

理系漫画家はやのん 基調講演

「漫画で伝えるサイエンス・コミュニケーション」



琉球大学理学部物理学科卒、千葉大学大学院教育学研究科修了。修士(教育学)。代表作に『Go! Go! ミルポ』(子共の科学)、『キラリ研究開発』(日刊工業新聞)、『理系受験生の好きになれる分野を見つけよう』(螢雪時代)などがある。現在、はやのん理系漫画制作室として、日刊工業新聞の「キラリ研究開発」等で連載中。マンガの手法と作文教育の方法をベースとした、理系の学生・教員向けのライティング・プレゼンテーション構成指導や、チラシ・ポスター制作指導を行っている。

児玉 聡 提題

「オンラインコースで届ける生命倫理学入門」

京都大学大学院文学研究科准教授。著書に『マンガで学ぶ生命倫理』(化学同人)など。2016年3月よりオンラインコース KyotoUx で Ethics in Life Sciences and Healthcare: Exploring Bioethics through Manga を開講。

森岡正博 提題

「マンガで哲学を表現する可能性—マンガ原画を描いた経験から」

早稲田大学人間科学部教授。著書に『まんが哲学入門』(講談社)など。2015年より、哲学者をゲストに招いたトーク・イベント「現代哲学ラボ」を開催中。

田中さをり 提題及び司会

「国連大学広報と雑誌『哲楽』での試み」

MID アカデミックプロモーションズ代表取締役。国連大学サステイナビリティ高等研究所広報担当としてイベントの企画や広報を担当。2011年から高校生からの哲学雑誌『哲楽』の編集人を務め、2016年4月に『哲学者に会いにゆこう』(ナカニシヤ出版)を刊行。

2016年 5月8日(日) 午後 1:00~3:15

慶応義塾大学三田キャンパス西校舎 1 F 519 大会参加費 非会員 1,000 円、会員 500 円、事前申込不要

主催：応用哲学会、お問合せ先：contemporary.applied.phil@gmail.com